

# 本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2015年7月1日発行（毎月一回発行）第690号

ISSN 0286-7001

## 出会い・本・人

聖書に問い続ける 矢田洋子

## 本・批評と紹介

W.ブルグeman 著／小友 聡、左近 豊 監訳  
旧約聖書神学用語辞典 加藤常昭

村岡崇光 著

私のヴィア・ドロローサ 大住雄一

金鎮虎 著／香山洋人 訳

市民K、教会を出る 真鍋祐子

リチャード・ヘイズ 著／河野克也 訳

イエス・キリストの信仰 太田修司

大住雄一 著

神のみ前に立って 左近 豊

E.トレルチ 著／高野晃兆 訳

中世キリスト教の社会教説 山本芳久

小西貞士・写真／河邊貞子・文

心をとめて 森を歩く 武藤謙一

岩井健作 著

兵士である前に人間であれ 荒井 献

斉藤孝志 著／小野寺 功 応答

道・真理・命(全3冊) 小林重昭

川上直哉 著

被ばく地フクシマに立って 吉田 隆

渡辺 聡 著

医者と薬がなくてももうつと引きこもりから  
生還できる理由 中村佐知

本屋さんが選んだお勧めの本

近刊情報

書店案内

7 JULY  
2015





# 実践する神秘主義

現代人の霊性のために

普通の人たちに贈る小さな本  
イヴリン・アンダーヒル著／金子麻里訳  
20世紀前半の英国の小説家・詩人にして神秘思想に関する多くの著作を著し、英国国教会で黙想会の指導者としても活躍したアンダーヒル。本書は、一般の人々にも届く言葉でキリスト教信仰の霊性を再解釈・再評価した名著であり、今なお広く読み継がれている。

◆四六判・本体2100円



# 今、なにをなすべきか

戦後の価値の擁護と発展のために！

隅谷三喜男に学ぶ  
姜尚中・和田春樹・加山久夫  
日本がアジアの中で孤立と反動化を深めつつある今、隅谷没後10年を覚え、その志を継ごうとする姜尚中氏が戦後の価値の擁護とアジア的連帯を熱く訴え、隅谷を慕う和田春樹・加山久夫両氏が応答する。

◆A5判・本体1000円

共同研究

日本の自殺（李政元）、生きる価値の揺らぎに寄り添う援助者として（引土絵未）、自死予防と「いのちの電話」（八尾和彦）、葬儀社から見た自死の問題（安宅秀中）、この世の光になるために教会ができること（藤藪庸二）、自死念慮者に対する牧会ケア（榎本てる子）、自殺者の葬儀と遺族へのケア（中道基夫）、自死遺族のグリーフケア（井出浩）、日本プロテスタント教職者と自死の歴史的考察（岩野祐介）、自死の何が罪とされてきたのか（土井健司）。

◆四六判・本体2600円

# 自死と遺族とキリスト教

「断罪」から「慰め」へ、「禁止」から「予防」へ  
土井健司編

# 新島襄物語

# 良心に向かう志

富田正樹・山本真司著

中学・高校生たちのために書き下ろされた「新島襄入門」。襄が何を願い、いかなる志をもって生きてきたかを、近代史を背景に、豊富な図版と平易な文章で解き明かす。オールカラー。

◆A5判・本体1200円



# パパやママががんになったら

藤井あけみ著

チャイルド・ライフの出会いから

難病と闘う子どもの心のケアを専門とするチャイルド・ライフ・スペシャリストが、親が難病を抱えたとき子どもとの接し方、また家族のあり方を、現場での出会いを通じて温かな視線から考える。

◆B6変型・本体1500円



## 出会い・本・人

### 聖書に問い続ける——矢田洋子

左近淑著『旧約聖書緒論講義』（教文館）を読んで感動に涙したのは、私が神学校に入学してから三年半後、旧約聖書神学を専攻し、修士論文を提出し終わった後のことでした。散らかった本やコピーの片づけにも飽きて、その場で何気なく読みはじめました。すると、なんと面白い。本書は、入学初年の必修科目の教科書でもあり、以前から持っていたので、授業や試験勉強のために読んだことはありません。でもその時には、なんてわかりにくい教科書だろうとしか思いませんでした。語り口調で旧約聖書学の主流であろういくつもの学説が次から次へと語られている。それが心にじーんと響いてきたのです。きちんと理解できたわけではないけれども、その説明の端々に、一言二言加えられるコメントに魅了されて一気に読んでしまいました。そして嬉しくなりました。どんなに疑っても、聖書には神さまの嬉しいお知らせが確かに書いてある、だから大丈夫。すぐ信仰の揺らいでしまうこんな私でも、誠実を尽くして取り組むなら、聖書に直接問い続けてもよいのだ、と思えたからです。本書との出会いは、「考えることは罪だ」と断罪された私の悲しい教会経験の記憶を完全に癒してくださるために、神さまが与えてくれたものだと思っています。

読んで嬉しくなりながら、私の頭に浮かんでいたのは、科学実験データの「確からしさ」の二つの基準——正確 *ru* (accuracy)

と精度 (precision)——を説明するときによく描かれる、弓矢の的に矢が何本も刺さっている図でした。私は神学校入学直前まで、実験化学の研究と教育に携わっていたので、「確からしさ」といえばこの正確さと精度が思い浮かぶのです。精度とは測定値のばらつきのこと、正確さとは測定値が真の値（実際には神のみぞ知る）からどれくらい偏っているかの程度です。いくら精度が高くても、矢が的の外れの一か所に集中しているのなら、正確さは低く真の値が見えていないこととなります。

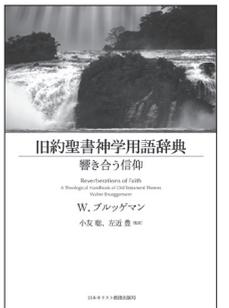
的外れな思い込みから脱するために、『旧約聖書緒論講義』ではこう言っています。「一つの方法論で、聖書がすべてわかるわけではない……方法論には限界があります。だからといって、色々な方法を混ぜてしまっても困る。一つ一つの方法論をはっきりと把握して、その意味と限界を知ること、自分の方法をそうした方法論の中にしつかりと位置づけること、それが大切です」

紹介されている個々の方法論自体は、否定される日も来るかも知れませんが、しかし、この基本姿勢は決して変わらないはずで、難しいかも知れませんが、私もこの基本に立って聖書に向かい合いたい、聖書から喜びを受け取り続けていきたいと思っています。

（やだ・ようこ 日本基督教団吉祥寺教会牧師（担任教師））

## 旧約聖書神学用語辞典 響き合う信仰

対話を楽しめる聖書辞典！  
W・ブルツゲマン著  
小友 聡、左近 豊〔監訳〕



加藤常昭

既に数冊の訳書で親しんできた、米国有数の旧約学者ブルツゲマンさんが、とても楽しい辞典を書き、それが遂に訳出された。小友聡教授、それに著者の元で学んだ左近豊牧師が中心になり、数名の訳者の共同作業がなされた。統一のとれた、読みやすい訳文が揃っており、ありがたい。

訳書では副題とされた『響き合う信仰』というのが、原書では先に掲げられている。訳書でもそうすべきであったのではないか、と思う。『旧約聖書神学用語辞典』という訳書名から通常の意味における便利な辞典が刊行されたことと誤解されやすいからである。著者は、そのような辞典刊行を意図してはいない序言で、本書を通読してもらいたいと要望している。本来百項目を書くつもりが、書き上げてみたら、うっかりして五項目多すぎた。しかし、そのままにしよう。それほど自由に、しかし、長い研究の蓄積からの成果を披瀝しながら、いったい旧約聖書とは、どのような意味における「聖なる書物」なのかを明らかにしたものである。

目次に掲げられた項目名を見るだけで興味深い。「神」の項目はない。最後にYHWHの項目があるだけであり、これは英語にも訳されず、このままの表記で記される。訳語は「主」であるが、読みも記されず、全項目で、神の名は旧約聖書がそうしたようにYHWHと記される。ただそれに関わる動詞などは、きちんと敬語で訳される。

固有名詞の項目も興味深い。イザヤ、エレミヤなどの項目はない。「預言者」の項目でまとめて取り扱われる。しかし、女預言者フルダは項目名にある。イゼベル、ハンナ、ミリアムなどは、皆独立項目である。そうかと思うと「殲滅する」などの意味を持つ「ヘレム」というヘブライ語が、そのまま項目名となっている。「平和」の項目はない。しかし、「戦争」の項目の叙述を読むと、むしろ、それは平和論である。

各項目についての論述も単なる解説ではない。どこを読んでも、いわば旧約聖書を生かす信仰と、その歴史のダイナミズムを写すいきいきとした叙述であるとともに、学問的には厳密で

ある。諸学説に耳を傾けるべきときには、それを整理して示し、判断は読者に任せるところもある。しかし、旧約聖書の言葉に照らし出された、現代のキリスト者の信仰の姿も批判的に述べる。たとえば旧約聖書では三箇所でしか語られていないという「復活」の項目を読むと、こんな記述に出会う。「最も不運なことには、批判的研究に基づかない現代のキリスト者の考え方において、復活はむしろ『自分の愛する者に再び会う』という、つまらない自己満足の信仰となってきた。死者の復活に関する聖書的な意味は、通俗的な考えとは対照的に、死という最大の否定を含むあらゆる否定をもとめない神の確かな力と誠実に焦点を合わせている」(三八七頁、佐藤泉訳)。ここに現れる著者の姿勢が本書の至る所に見られる。もともと学問とは批判に他ならないが、そのような批判的な姿勢を旧約聖書の読み方にも、自分の信仰の生き方にも求める。それとともに語られるのが、明確な神信仰である。この項目の最後はこうな

る。「そのような確信の矮小化は、文化変容した居心地のよい教会において途方もない誘惑となる。というのも、そうした教会では信仰を合理化し、『当然な』ことは何であれ混乱させないように努めているからである。結局、神が死の力に勝利することに関して『当然な』ことは何もない。必ず勝利するだろうというそのような確信を抱くのは『当然な』ことではなく、神が未来〔将来〕と訳すべきである」を確実に支配するという確信の中でイスラエルが喜んで受け入れたものなのである」。「死」について語る文章は、ローマの信徒への手紙第八章三節以下を引用し、「信仰」に関する文章は讚美歌の引用で終わる。そこに至る考察は深い。とにかく読む者を対話にひきずり込む力がある。久しぶりに読書を楽しませてもらった。感謝している。

(A5判・五三〇頁・本体六二〇〇円+税) 日本キリスト教団出版局

## 井上洋治著作選集4《全5巻》 わが師イエスの生涯

山根道公 解説  
広谷和文 解説



福音の喜びを伝えることに生涯を賭けてきた著者が、渾身の力を尽くして完成したライフワーク。選集版は著者の書簡や遠藤周作氏、安岡章太郎氏との座談会も収録。  
A5判 上製・248頁・2700円

シリーズ案内

- 1 日本とイエスの顔 (2015年7月刊行)
- 2 余白の旅―思索のあと (2015年9月刊行)
- 3 キリストを運んだ男―パウロの生涯 (2015年11月刊行)
- 5 遺稿集「南無アッパ」の祈り (好評発売中) A5判・248頁・2,700円

## 新版 人間とは誰か

A. J. ヘッセル 中村匡克 訳  
20世紀の代表的ユダヤ教思想家が、神との正しい関係において、「人間で在ること」の論理を追求。  
四六判 並製・224頁・2,376円

## こどもさんびか 改訂版略解

日本基督教団讃美歌委員会 編  
各さんびかの作詞・作曲の経緯や歴史的背景等の情報と解説を収録。豊かな礼拝・さんびのために。  
A5判 並製・148頁・1,620円

## 日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)  
<http://bp-uccj.jp>

侵略戦争の犠牲者との和解の道を探る旅  
村岡崇光著

## 私のヴィア・ドロローサ 「大東亜戦争」の爪痕をアジアに訪ねて



大住雄一

以前、ライデン大学で退任間近の村岡先生に国際学会で目にかかり、日本で旧約テキスト研究に関心のある若い伝道者の留学の可能性をうかがった。そのときに先生は、「今度韓国で集中講義をしますよ」とおっしゃった。そのことを、留学を希望する若者に伝えたが、実際には、委ねられた教会を一ヶ月ないし二ヶ月休んで研修に出かけることはできず、話はそのまま進まなかった。

この度本書に接して、あの時私は、何と大事なものに気づかずにおぼろげだったのか、その愚かさを後悔することとなった。なぜ私ほひとつでも、先生が韓国で集中講義をなさる御意図をうかがわなかったのか。うかがっていたらどうなるということでもないのだが、本書でも、他者への無関心という癒し難い罪過について、何度も注意を喚び起こされており、今後は、先生の旅についてゆくことはできないにしても、ひそかに祈らせて頂こうと思った（この程度でも「先生」と呼ばせて下さい）。

本書の著者は、日本でよりも外国で知られている「聖書語学者」である。ヘブライ語文法の教科書のスタンダードに、「ゲ

ゼニウス・カウチュ」と呼ばれるものがあるが、最近の新しい

学問を代表する教科書には「ジュオン・ムラオカ」があり、旧約学の世界でこの教科書を知らない人はいない。その村岡氏は、ヘブライ大学で学位を取られたあと、イギリス、オーストラリア、そしてオランダでそれぞれ十年あまり、聖書語学を研究し、また教えて来られた。イギリス、オーストラリア、オランダ、いずれも「大東亜戦争」（そのように著者は取って呼ばれる）において日本軍にひどい目に遭わされた国である。日本が、それら諸国の植民地支配から東南アジアを解放したと言えは聞こえは良いが、実際は国際法違反をたくさん犯して、（エジプトがイスラエルにしたように）捕虜を強制労働に服させて多くの犠牲者を出し、解放したはずの現地の人々を数えきれないほど虐殺した。そうした日本が犯した不法の事実の証言に、それらの国で研究教育に専念した村岡氏は出会うことになった。

村岡氏は、半世紀にわたる海外生活にもかかわらず日本の国籍を離れず、日本人としてのこの罪過を負おうとされた。本書で明らかになることは、村岡氏が聖書語学の研究という純粋な

した上で、和解の道を探り始めた。

本書で繰り返し強調されるのは、「赦すことは忘れることとは違う」という点である。聖書の神は、赦す神であるが、民の不法を決して忘れない神でもある。現在の日本人がしばしばそうであるように、自分の行った加害を忘れるというのは言語道断であるが、被害の事実をきちんと記憶し続けることも、決定的に重要だと教えられる。アジアの被害国では、今の大国日本と仲良くすることは必要だと、かつての日本の犯罪を忘れてよとする人が多いし、日本人もそれに甘えて、自分のしたことを問題にしようとしな。これが最近力を増して来た「歴史修正主義」（主義などと格好をつけられるものではない）の恥ずべき本質だろうし、このような忘却からは、本当の贖罪も赦しも生まれまいだろう。

（おおすすめ・ゆういち＝東京神学大学教授）  
（四六判・二〇八頁・本体一五〇〇円＋税・教文館）

学問に飽き足らず、定年退職されてから、本当はやりたかった和解の旅を始められたのではないということである。ライデン大学退任を前にして、ご夫婦で祈り求められた末たどり着かれた結論は、「少なくとも私はこれまでの聖書語学ならびに聖書古代語訳の研究を続けるべきだ」ということであつたと語られている（二八頁）。その一生をかけた成果を、「かつて日本軍国主義、大東亜戦争という名の侵略戦争の犠牲になったアジアの諸国の同僚の学者や若い学生たちと分かち合うために……無報酬で向こうの大学や神学校で教えさせてもらおう」という志を実行されたのだ（同頁）。本書は、その志を受け入れて氏の教えを受けた人々との出会いの報告である。氏と出会って弟子たちは、ヘブライ語やギリシア語で旧約聖書を読むことの意味を学び、神の言を伝える者としての姿勢を確立して行つた。また、和解を求める氏の姿を見て、日本軍によって不法に殺された自分の親族の記憶を（直接知らなくても）再び喚び起こし、そう



## 三位一体の神と 礼拝共同体

ジェームス・B・トーランス  
James B. Torrance

有賀文彦・山田義明\*訳



「信仰告白」において  
三位一体の神を表明しつつ、  
三位一体なる神を、  
礼拝と  
わたしたちの思い・生活から  
排除してはいないだろうか。

A5判  
定価【本体 2,400 + 税】円  
ISBN978-4-86325-075-8



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

従来の韓国キリスト教史を打破する創見

金鎮虎著  
香山洋人訳

## 市民K、教会を出る その欲望の社会学



真鍋祐子

本書は二〇一〇年九月から一年余りにわたり『ハンギョレ21』に連載された「神々の社会」をもとに編まれた。昨年四月の「セウォル号惨事」をへた今、改めて著者の慧眼に感服させられる。その間の教会保守派による排他的言動——「貧乏の子は修学旅行に慶州仏国寺にでも行けばよかった」とうそぶく幹部牧師や真相究明を求める遺族たちに「地獄へ落ちろ」と叫ぶデモ隊など——は、耳を疑うべき光景だった。一方、進歩派からは、かつてのような民衆に寄り添い神の義を求める強靱な「言葉」が響いてこない。この現状は日本教界にある韓国キリスト教への羨望、「熱心な信仰や社会活動に対する羨望とある種の神話化」（訳者あとがき）を解体するに十分であろう。

同じ頃、ムン・チャングク総理候補者が過去に行なった教会特講の内容が報じられた。本書でも名があがる大型教会の長老であるムンは「日帝支配とそれに続く分断は神の御心だった」と語り、物議をかます。ことに「当時の韓国に独立を与えたら共産化せざるをえなかった」という発言は本書の根幹にかかわる部分だ。

も共有された成長至上主義である。後者は近代化の最底辺にあぐら都市貧民層の苦難を「三拍子の救い（癒し、物質、霊）」に転化する「生産的憎悪」言説で、前者の反共主義を補完した。他方、これを止揚する「民主化」言説にもとづく「一九八七年体制」も、価値一元化という意味ではその延長上にあった。

九〇年代以降、民主化と消費社会化とともに台頭した「市民」は国家と内在的に一体化された「国民」と違い、私的欲望を肯定する「個人」を浮上させた。かくして「市民K」は古い衣をまとった教会から離れていった。教勢の減少局面において成長至上主義の説教慣行は「小さな教会」には身の丈に合わない弊習でしかなく、ただノルマをこなすためのお粗末な説教や教会売買スキャンダルの温床となる。また大型教会の後期資本主義的な「積極的思考」神学は「失敗を個人の責任に転嫁する」として、今や「公共の敵」とみなされる。そうしてアインデイトの危機に陥った人々は「失敗地域」への「短期宣教」や財政

従来の韓国キリスト教史では、日帝時代は神社参拝拒否とそれによる弾圧という「抵抗の伝統」によって神話化され、また歴代政権はキリスト者・李承晩の親米反共路線を踏襲したが、親米反共的な強権政治は「抵抗の伝統」を継承した民衆神学を支柱とする民主化闘争を通じて克服されたとされる。本書はそうした歴史の非連続を否定する立場をとる。前述したような時代錯誤的で排他的な言動の数々や、九〇年代後半からのプロテスタント教勢の衰退という現実に向き合うために。

まずアメリカ主義宗教としての韓国キリスト教は、すでに一九世紀末以来の根本主義的なアメリカ人宣教師の活動に見出されるというのが、本書の出発点だ。そして根本主義ゆえに神社参拝に屈した人々は羞恥心という集団的傷痕を負い、憎悪と復讐の心性が共産主義の悪魔化言説に転化されたという。軍事独裁体制下での教会成長は反共という排他的アイデンティティに依拠した祖国近代化の歩みと一体化していた。これはアメリカ北長老会の根本主義の影響を最も強く受けた以北からの「越南者型教会」とともに、純福音教会のような「先発大型教会」に援助による「安価な実践」を勝利主義の代償行為とし、他方では所望教会にみるような富裕層の清貧の美学が周知される。これらは大衆にとつての福音となりえない。

だが新自由主義時代の予測不可能な社会では、人々は「宗教的市民」とならざるをえない。では「市民K」が帰還すべき場はどこか？ 著者は、韓国社会の「不都合な他者」たちとともに生き、思いと信仰を分かち合う「小さな教会」に希望を見出し、自身の実践例をあとがきにかえて述べている。その淵源は都市貧民層を包摂した純福音教会ではなく、朝鮮戦争後の最底辺の人々を分け隔てなく癒した羅雲夢の祈祷院運動にあるとするくだりには瞠目させられる。これが「韓国プロテスタントの隠れた伝統だ」と著者は言う。そこは日本の教界が真に羨望すべき「市民K」の原郷ではなからうか。

（まなべ・ゆうこ）東京大学東洋文化研究所教授  
（A5判・二四〇頁・本体一四〇〇円＋税・新教出版社）

## 神学ダイジェスト118号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2015年6月発行  
A5判120頁  
定価630円

### 特集 聖ヨハネ・パウロ二世教皇

- 聖ヨハネ・パウロ二世教皇の思想
- ヨハネ・パウロ二世の四半世紀
- 反対を受けるしるし
- ヨハネ・パウロ二世の信仰の神学
- 新しい福音宣教
- 社会的関心と連帯の教え
- ニューエイジ運動とヨハネ・パウロ二世
- 結婚と聖体——いのちと愛の賜物——
- （第四回）『正教神学概論』——原罪——

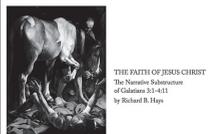
- 中野裕明
- ！セイヴィス
- M・トライポール
- A・ダレス枢機卿
- A・ダレス枢機卿
- D・ドール
- M・パクル
- V・ロスキー

上智大学神学  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

信仰義認論を鍛え直したい人の必読書

リチャード・ヘイズ著  
河野克也訳

## イエス・キリストの信仰 ガラテヤ3章1節-4章11節の 物語下部構造



イエス・キリストの信仰  
ガラテヤ3章1節-4章11節の物語下部構造  
リチャード・B・ヘイズ 河野克也 訳

太田修司

本書の初版が世に出た一九八三年は、パウロの「キリストのピステイス」という表現を主語的に解する流れ（主語的解釈A。解釈Bでは「キリストの「人間に対する」信実」という意味になる）が英語圏のパウロ研究者たちの間に浸透し始めた時期と重なる。その流れは、ヘイズのこの著作に後押しされてますます勢いを増し、今日に至っている。ヘイズの所説については、L・T・ジョンソンの「序文」と河野克也氏の「訳者あとがき」に詳しい説明があるので、この紹介文では「ヘイズ以後」を展望する意味合いから、あえて著者のテーゼの問題点のいくつかを指摘することにしたい（長くなるので他の問題点は省略）。

ヘイズの重要な論争相手の一人であるJ・D・G・ダンは主語的解釈Aを批判して、「それ『キリストの信仰』は何を指しているのか。その答えは、決して明らかではない」と述べている（四三五頁）。ヘイズ自身は「キリストの信実」について「十字架上の彼の憐れみ深い自己犠牲の死を指す」と明言している（三七頁、四九〇頁注五八）、ダンの批判はヘイズには直接当てはまらないかもしれないが、問題はそれほど単純

ではない。ヘイズは、ギリシア語のピステイスが「信仰」と「信実」の両方を意味することを理由に（四八八頁）、「キリストの信仰」と「キリストの信実」をほとんど区別せず (faithfulness) of Christ という表現を用いる）、両者の間を巧みに行き来しているように見えるからである。「言語の多義性」をこうした操作の根拠にすることは果たして正当であろうか。これは決して決着済みの問題ではない。

ヘイズは「キリストのピステイス」の主語的解釈を堅持しながら、キリストがパウロにとって信仰の対象であることを強調している（二四二、三〇〇頁）。人間の信仰を無視して主語的解釈（「キリストの信実」）を展開したわけではない（四九七頁の訳者解説も参照）。しかし、キリストが信仰の対象であることを認めることと、この属格構成が現れる個々の文脈で「キリストの信実／信仰」が人間の信仰とどう関係するかを説明することは別問題である。また、信仰はそもそもどのような性質のものであるかについて、ヘイズは満足のいく説明を与えていない。信仰を「救済の源泉としてのキリストのピステイス」への「応

答」（四八三頁）や「キリストの信実の再演」への「参与」（三七二頁）として説明するだけで十分であろうか。そもそも「応答」や「参与」はどのようにして実現されるのだろうか。ルターは「キリスト者の自由」第十二で「信仰」を「結婚指輪」にたとえた。彼は信仰がキリストとの根源的関係性において成り立つ原始的概念（単なる応答以上のもの）であることを、誰よりもよく知っていた。人間の信じる行為自体が「救済の根拠」ではないことをヘイズは正しく論証したが、信仰の関係性を説明できていない点では、「キリストの信実」を認めようとしないう偏狭な目的語的解釈論者と大して変わらないのではないか。「キリストの信実／信仰」が人間の義認の根拠であることについて、ヘイズは「イエスの信仰を共有する者」(「神は」義とする)と述べている（四七一頁）。彼の図式に照らせば、この共有は福音のストーリーの「主題のシークエンス」に位置づけられるはずだ（倫理が問題になる「最後のシークエンス」ではない）。

だが、イエスの信仰を共有するには、まずイエスの人格と行為が人間にとって信じるに値することを認めること（信仰）が必要である（主語的解釈Bの根本的主張）。そうでないと、ヘイズが倫理においてさえ慎重に退けたイミタチオ（三三八頁）を義認論にひそかに持ち込むことになりかねないであろう。以上の諸問題、「エク・ピステオース」のキリスト論的積義の正当性、および特に「神聖なストーリー」の有用性と危険性の問題は、すべての関係者が取り組むべき重要課題である。だが、それらを適切に受けとめるには、まずこの古典的著作を批判的に精読することが必要である。河野氏の貴重な訳業のおかげで（いくつもの誤訳や日本語の不備、ギリシア語の誤記もあるが）、この作業がかなり楽になったことを喜ぶたい。

（おた・しゅうじ＝翻訳家 <http://www.zrikkyo.ac.jp/web/sota/>）  
A5判・五一五頁・本体六五〇円＋税・新教出版社

基督教共助会九十年記念誌編集委員会「編」

## 基督教共助会九十年

資料編

完結して好評発売中！



「キリスト教の根本は友情である」（森明）  
キリスト教雑誌『共助』一九三三（昭和八）年創刊号からの総目次を中心とめられた資料集！  
森明誕生の一八八八年から二〇〇九年までの共助会史年表は一般史との併記。時代の中で主張された警醒の項目をたどることによって日本キリスト教史の一断面を垣間見ることができる。

ヨベルの新刊ご案内

## 基督教共助会九十年

その歩みに思う

● A5判美装・二二六頁・一、二〇〇円＋税  
基督教共助会九十年記念誌編集委員会「編」  
好評発売中！  
キリストのほか、自由独立の精神と主にある友情に生かされた群れの歩み！  
小さな群れの上に、神がどんなに大きな恵みの業を成してくださったかを、歴史記述を静かに積み重ねつつ辿る「共助会九十年史」。



株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星

神の前で知る新しい自分に出会う  
大住雄一 著

### 神のみに立つて 十戒の心



左近 豊

本書を読む者は聖書の証しする神の峻厳さに打たれるであろう。引用されてはいないものの深く噛みしめながら味わっていたのは、パウロの次の言葉であった。「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。だれも健全な教えを聞こうとしない時が来ます。そのとき、人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、真理から耳を背け、作り話の方にそれて行くようになります。しかしあなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え忍び、福音宣教師の仕事に励み、自分の務めを果たしなさい」(IIテモテ四・二一五)。伝道者も信仰者も、そして信仰を求めて教会の教えの礎となるみ言葉に近づく者も、自らの信仰を問い直され、甘えを糺され、妥協を排して、改めて神のみに立つ身支度を整えるべく、励まし、招く書である。

教会が重んじてきた三要文の一つ「十戒」。他の「主の祈り」を祈り、「使徒信条」を礼拝で告白する教会は少なくないであろうが、「十戒」を週毎に口にし、魂に刻むことは多くないの

ではないだろうか。大事であることは分かっている、どこかとつぎにくさも感じさせる「十戒」。その深淵かつ茫漠とした世界を、旧約の法研究の第一人者である著者が、教会的な筋道に沿って信仰的に、一步一步、牧会者として、平易な表現で福音の喜びの源へと読者を手引きする。何気ない表現の背後に膨大な旧約聖書学の研究史の蓄積が垣間見えるものの、ひたすら「神のみに立つて」読者を導く十戒の本筋から外れない。さらに簡潔な語りの奥に、複雑に絡み合う解釈史における議論の数々を知ることが出来るものの、脇道に目を奪われることなく救いの轍を踏み外さない。丁寧な私訳によって原語の持つ息吹、語り口、さらには「十戒」の心根が胸に迫ってくる。原語に精通した著者だからこそ導き出される読みに触れる幸いも各所に散りばめられている。FEBICで好評を博した番組から生まれた書物であり、聴き手や番組スタッフの反応に応答しながら語られてきた経緯もあり、一つの章で湧き上がる問いが、後の章で受け止められて新たなボールが投げ返され、更なる展開へと誘われる。

本書は二七回で十戒を語る。そのうちの三分の二以上が十戒の前半、いわゆる第一の板に刻まれたとされる「神について」語る言葉に割かれている。絶対的な他者として対峙される神の前に立たされてこそ、初めて明らかになる自らの姿がある。自分では考えたこともなかった(神の前にある)自分を「発見する」ものとされる(四三頁)。それは『讚美歌』三五五番にあるような「主を仰ぎ見れば……我ならぬわれのあらわれ」来る経験、あるいは罪によって失われた神の「似姿」を主の十字架の贖いによる回復の内に見出す希望、また終わりの日に御前に立つのを畏れつつも遙かに望み見る信仰と響きあうのを感じる。割かれた多くの頁には、ありのままの自分を肯定することによって陥る自己神格化への危うさに対する警鐘が強く激しく響いている。

そして私たちの祈りの先ほどのような方を仰いでいるのかが問われてくるのが第一〇回目。困難と不条理の中で実現しない

願いにのたうち苦しみながら祈りを絞りだしてきた人ほど、きしむ魂の痛みを覚えながら、改めて心を高く上げるものとされる。そこでは「聞き届けられた祈りよりも、聞き届けられなかった祈りが大事」であり、そこにこそ、主の御心が現され、わたしたちの願いを超えたところに救いは実現したことを思い起こさせられる。

さらに神の御前に立つ礼拝者は、十戒の第二の板に刻まれた言葉を実践することで、日々内なる人が新たにされ、光の子、地の塩、キリストの香りなる信仰の証し人となって、「いずれ同じ主の前に立つ」本当の隣人を得ていく伝道的広がりへと召されていることにも気づかされる。神の言葉によって常に改革される教会の信仰に根差した十戒の学びへの良き道しるべともなる。

(さこん・とむ) 日本基督教団美竹教会牧師  
(四六判・二三三頁・本体二五〇〇円+税・教文館)

### 宮村武夫著作 8

その深さ、広さ、豊かさ

## ヨハネに見る手紙牧会



クリストにある「交わり」と、  
終わりの時に対する「望み」の書！

未発表「ヨハネ書簡」説教。副題の示す「深さ、広さ、豊かさ」を味わいある内容で提供。聖書の事実性がどういことなのか、聖書の事実の宣言、さらなる厳しさや牧会という実存的な「戦い」、真剣勝負に挑むべき説教のあり方がにじみ出てくる。エッセイは、吉枝隆邦師、遠藤勝信師。●四六判上製・三三四頁・一、八〇〇円+税

### ヨベルの新作ご案内

日本聖書神学校キリスト教研究所「編」  
礼拝の詞 教会の時  
いきいきとした礼拝を目指した資料の数々！  
聖霊降臨日から始まる半年あまたの「教会の時」教会ではさまざまな主題を持つ行事が季節ごとに行われる。人びとの生活サイクルに深く根ざした、それぞれの行事に対応した礼拝資料集。既刊「礼拝の詞1」待降節から三位一体主日まで。●各1200円+税



株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星

神学・宗教哲学と歴史学・社会学の橋渡しをなす

E・トレルチ著

高野晃兆訳

## 中世キリスト教の社会教説



山本芳久

エルンスト・トレルチ（一八六五—一九二三）は、神学、宗  
教哲学から歴史学、社会学までを架橋する領域横断的な仕事を  
成し遂げた偉大な学者である。我が国においては、全一〇巻に  
及ぶ『トレルチ著作集』（ヨルダン社）が夙に刊行されていた  
ものの、主著である『キリスト教諸教会および諸教派の社会教  
説』（一九二二年）に関しては、その第一章が『古代キリスト  
教の社会教説』（教文館、一九九九年）として翻訳されるだけ  
に留まっていた。今回、その第二章が『中世キリスト教の社会  
教説』として翻訳刊行されたことは、トレルチ研究の観点から  
のみではなく、神学・歴史学・社会学などの周辺諸領域への波  
及効果という意味においても、大変喜ばしいことである。

本書の大半は、中世スコラ哲学の大成者であるトマス・アク  
ィナス（一二二五頃—一二七四）の社会理論の分析に割かれて  
いる。その分析の中軸となっているのは、「自然法」概念であ  
る。トマスの社会理論を考察するさいに自然法概念に着目する  
ことは、極めて正統的な方法論であるが、トレルチの議論の独  
自性は、トマスに代表される伝統的な自然法論には存在しない  
「絶対的自然法」と「相対的自然法」との区別の導入のうちに

見出される。

「絶対的自然法」とは、人間一人一人と社会全体との調和に  
満ちた発展を可能にさせる「神」と「人間理性」という普遍的  
な原理のことである。だが、アダムの墮罪によって樂園から追  
放された罪深い人間には、そのような理想的な規範に完全に従  
いながら生き抜いていくことはできない。しかし、だからとい  
つて、無秩序な現実を現状肯定的に追認するに留まるわけにも  
いかない。そこで妥協として生まれてきたのが「相対的自然  
法」である。人間の弱さや悪辣さを前提にしつつも、強制力を  
有する権力秩序によって担保された実定的な法規範によって罪  
を抑制しながら、より人間らしい可能性を開花させていくこと  
を可能にする根拠となる原理、それが「相対的自然法」である。  
中世の社会理論は、このような仕方、イエスの教えの中に見  
出されるラディカルな神愛・隣人愛の理想と、不完全なこの世  
に生きる弱さに満ちた具体的な人間の在り方とを統合する観点  
を提示することができたのである。

「絶対的自然法」と「相対的自然法」との区別がトマス自身  
のテキストからは正当化することが困難である点をはじめ、ト

レルチの議論のうちには、そのままでは受け入れることのでき  
ない点も多々ある。だが、キリスト教神学における救済史的な  
人間観を、特殊キリスト教的な文脈から自立させて、より普遍  
的な社会哲学的洞察として定式化する試みは、社会学の一理  
論としても、文献学的研究に留まりがちなスコラ哲学に対する  
挑戦的な解釈の実験という点でも、大変刺激的なものとなって  
いる。

実は、さほど知られていない事実であるが、本書は、我が国  
におけるスコラ哲学研究にとって、極めて重要な意義を有して  
いる。我が国の中世哲学研究の開拓者である岩下壮一神父（一  
八八九—一九四〇）は、もともとアウグスティヌスを中心とし  
た教父研究に関心を有しており、中世スコラ哲学にはさほど魅  
力を感じていなかった。その岩下が、欧米留学中に、トレルチ  
と深い交流のあったフォン・ヒューゲルから『社会教説』を薦  
められて読み、「トレルチは私をスコラ哲学と和解させる端緒

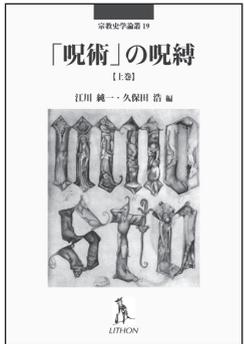
となった」と述べているのである（「私の敬慕する先生」。本  
書は、我が国の中世哲学研究の隠された原点でもあるのだ。

この書物は、トレルチの時代よりも遙かに諸学の細分化が進  
んだ現代においてこそ、読まれるべき意義を有している。神学  
や宗教学に関心のある読者は、歴史学的・社会的な思考方  
法には触れたことがないことが多く、歴史学や社会学に関心  
のある読者にとつて中世スコラ哲学やキリスト教神学は馴染み  
のないものであることが多い。そうした状況のなかで、トレルチ  
のこの書物は、読者の多様な関心に応えつつ、読み進めるにつ  
れて、それまでさほど関心を抱いていなかった他の学問領域へ  
も読者の関心を自ずと広げていく力を有している。このような  
魅力を有する本書の刊行を祝すとともに、続いて、『社会教説』  
第三章の翻訳刊行が実現していくことを期待したい。

（やまもと・よしひさ＝東京大学准教授）  
（A5判・三〇六頁・本体四〇〇〇円＋税・教文館）



新刊



宗教史学論叢19

## 「呪術」の呪縛

【上巻】

江川純一・久保田 浩 編

●A5判上製 本体5,000円＋税

江川・久保田「呪術」概念再考に向けて／藤原聖子アメリカ宗教学における「呪術」概念／横田理博ウェーバーのいう「エントツァウベルンク」とは何か／木村敏明プロテスタント宣教師の見た「呪術」と現地社会／池澤 優中国における呪術に関する若干の考察／川瀬貴也近代朝鮮における「宗教」ならざるもの／堀江宗正サブカルチャーの魔術師たち／他8篇を収録。

ISBN978-4-86376-042-4

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

命を尊び祝福する写真と文章  
小西貴士・写真  
河邊貴子・文

心をとめて 森を歩く



武藤謙一

小西貴士（と呼ばせてもらいます）がキープ協会キープ自然学校に就職した同じ年、わたしは清里聖アンデレ教会牧師として遣わされ、同時にキープ協会のチャブレンとなりました。いつ頃からかはっきりとは覚えていませんが、いつしか親しくなり、わたしの執務室で、あるいは近くのお店で、他の職員たちと一緒に、あるいは二人で飲み、食べ、話すようになりました。地域や職場のヴィジョンについて、憲法や政治について、子どもたちのこと、子育てについて、自然環境について、話しは何時でも尽きず、しばしば深夜遅くまでに及びました。今振り返ってもわたしにとって楽しい時間でした。いつも彼と話していると感じることがあります。それは自然や子どもたちに対する彼の真摯で一途な想いであり、また彼の目がきらきらと輝くことです。子どものような瞳をもっているのです。

河邊貴子さんは小西ほど親しくはありませんが、わたしが属していた横浜教区保育者研修会でもお世話になりました。幾つかの幼稚園が保育実践を発表したとき、河邊先生はコメントーターとして関わってくださいました。足りないところ、改善

した方がよいと思われるところも多かったと思うのですが、足りない部分を指摘することよりも、先ず良いところをしつかりと評価してくださったことが印象に残っています。子どもたちや保育に対する豊かな経験と知識また厚い情熱をもっておられる方です。

そんな二人によって『心をとめて 森を歩く』が生まれました。

この本に紹介されている小西が撮った写真の多くは、普段わたしたちがよく目にする植物や昆虫です。わたしたちが目もめずに通り過ぎてしまうような足元でなされている命の営みの一瞬を見事にとらえています。わたしたちが気づかずにいる足元にこんな命の輝きがあり、美しい世界があることに改めて驚かされます。また写真に添えられている短い文章がわたしの心をその写真の世界にとめさせ、揺さぶり、想像力をかきたたせてくれます。

小西の写真の間にある河邊さんのエッセイは、ほほえましい子どもたち、天に召されたお連れ合いとのエピソードを通して、

丁寧に命と向き合うことの大切さを分かりやすく語っています。河邊さんが語るエピソードの場面場面を想像しながら読んでいく自分に気づかされます。

わずか百ページほどの小さな本ですが、次から次へと読み進むのではなく、自然と一ページを開いてじっくりと思いつく、ゆつくりと次のページをめくりたくなる本です。そうして読み終わった時には、わたし自身が森の中を歩いて来たような感じにさせられます。読み終わってから外に出て身がかがめて地面に近づき、そっと草花を眺めてみたくくなります。わたしも事務所の前の花壇に行ってみました。清里の大自然とは違う都市ではありますが、そこにも確かに幾つもの昆虫がいること、気づかなかった植物が目にとまり、何か新しい発見をしたような嬉しい気持ちにさせられました。

二人に共通していることがあります。それは一つひとつへの命を尊び祝福する気持ちであり、自然や子どもたち

に対する、また目に見えないものに対する謙虚さです。小西が大好きな聖句、「安らかに信頼していることにこそ力がある。」（イザヤ書30・15）が思い出されます。

当たり前のことのように思われるかもしれませんが、その姿勢を何時も保ち続けることは決して簡単なことではありません。それをずっと保ってきた二人だからこそそのメッセージだと思うのです。

自然が大好きな方、子育て中の方、時間に追われているなど感じていらっしゃる方、少し疲れているな、元気がないなと感じている方、子どもたちにも、そして皆さんに読んでいただきたい本です。

（むとう・けんいち）日本聖公会九州教区主教  
（四六判・一〇四頁・本体一八〇〇円＋税・聖公会出版）

キリスト教人格教育論 —— 個人の尊厳を見つめて

東洋英和女学院大学教授 吉岡良昌

◆二十七年に及ぶ、キリスト教に基づく人格教育の探究と実践。すべての教育は個人の尊厳を基盤とするべきであり、その実践にはキリスト教の人間理解と価値観が不可欠であることを、南原繁、森有正、コメニウス、エリクソンの主張に触れながら、歴史的に立証。ミッションスクール意義も問う提言の書。

春風社の新刊



定価 本体三〇〇円＋税 ◆四六判上製◆二四八頁

春風社  
〒220-0044 横浜市西区  
紅葉ヶ丘53 横浜市教育会館3F  
info@shumpu.com  
http://www.shumpu.com  
TEL 045-261-3168/FAX 045-261-3169

歴史と社会に開かれた教会の形成を  
岩井健作著

## 兵士である前に人間であれ 反基地・戦争責任・教会



荒井 献

本書は、岩井健作牧師による、聖書の批判的・歴史的解释に基づく、約五〇年にわたる開かれた教会の記録である。内容は二部からなり、第一部では、日本基督教団岩国教会牧師として同地のアメリカ軍事基地内における反戦兵士との連帯活動が、第二部では、日本基督教団の「信仰告白」は「戦争責任告白」へと実質化されるべきとの立場から、沖縄キリスト教団との「合同のとらえなおし」活動が、それぞれ報告されている。両部に通底する宣教への姿勢は、隣人を教会の信仰へと抱え込むことではなく、教会が隣人とりわけ社会的「弱者」へと開かれ、彼らと共に生きて、主体的共同性を形成することにある。

第一部を読んで私は、イエスの「癒しの奇跡物語」が伝承の古層において「家族（社会）への帰還命令」で終っていたという自説のことを想起した（拙著『イエスとその時代』（岩波新書、一九七四年、九〇頁以下参照）。私見によれば、当時イエスは、ユダヤ社会において「罪人」として家族（社会）から隔離生活を強いられていた「病人」の家族（社会）への復帰願望に寄り添い、家（社会）に帰還して主体的に生きることを促し

た。ベトナム戦争で精神的トラウマを負った兵士たちが岩国基地内で「兵士である前に人間であれ」という思いに至り、基地からの脱走を企てた際に、彼ら「良心的兵役拒否者」に連帯し母国への帰還を促すかたちで、「ベ平連」の小田実らと協力して、反戦活動を展開した岩井牧師らの行動は、イエスの「宣教」と並行しているのではないか。

第二部の主題を成す、日本基督教団の「信仰告白」を問う、沖縄キリスト教団との「合同のとらえなおし」を求める著者の教会論も、前述の宣教論の延長線上にある。日本基督教団が過去の「負の遺産」と真剣に向き合うこと（「戦責告白」）なしに、沖縄キリスト教団を一教区として教団に取り込んだとすれば、それは、九十九匹の「羊」を「山に残して」（聖域に保護して）、一匹の「迷える羊」を探しに行く牧羊者（マタイ福音書一八・一二以下）のようなものである。これは、九十九匹の羊を「荒野に放置して」一匹の「失われた羊のもとに歩んで行かないであろうか」という問いかけで終る譬話の古層（ルカ福音書一五・四）に対するマタイの「上からの目線」による解釈

である（前掲拙著、一三〇頁以下、『イエス・キリストの言葉——福音書のメッセージを読み解く』岩波現代文庫、二〇〇九年、一八九頁以下参照）。「マタイ福音書が示した、……安定した共同体の視点から迷える一匹を見る方向は、近代の日本の教会の通俗的安定への方向と重なり合って滑らかではある。しかし教会は、その共同性の質において、イエスが示した最古層が示す方向、最も開かれた共同性へと絶えず引き寄せられることを恐れてはならない」（二二頁）。

本書出版の実現に尽力した著者の「畏友」大倉一郎氏（フェリス女学院大学前教授、日本基督教団川和教会牧師）が、本書に寄せた「解説」の中で、本書の内容を、次のように的確に評価している。「彼は教会の内外を問わず、主体的人格としての人間と人間の連帯を切実に求めた。その歩みの中から岩井が発した言説は、観念が先行し、ともすれば自己中心的に終始するような神学的関心を脱して、歴史と社会との関連に開かれ

た宣教と教会形成を担おうとした一人の主体的キリスト者の人間学的思索を提示していると思われる」（二二四頁）。

なお、本書にはほとんど誤植がない。ただ、唯一箇所（一四〇頁）に誤記が見い出された。「イエスは主なり」という教会の信仰告白は歴史的状况に対しての基本的姿勢であって、それは原始教会の「キュリオス イエスス」という告白に遡り、それをもって対峙したのはローマ帝国の支配権力への告白「皇帝は主なり」であった。しかし、そのギリシア語表記は、「キュリオス カイサルス」ではなく、「キュリオス カイサル」である。

（あらい・ささぐり東京大学・恵泉女学院大学名誉教授）  
（四六判・二四六頁・本体一五〇〇円＋税・ラキネット出版）



## 新刊 死生学年報 2015

### 死後世界と死生観

東洋英和女学院大学  
死生学研究所編  
●A5判並製 本体2500円＋税

#### 死後世界の体感

北沢 裕

#### 西洋中世美術にみる 天国と地獄の《音楽》

鈴木桂子

#### 記憶される死者 忘却される死者

佐藤弘夫

#### カノボス容器にみる 古代エジプト人の死生観

大城道則

#### 霊媒から腹話術師へ

高井啓介

#### 「エサルハドン王位継承誓約 文書」にみる生と死

渡辺和子

#### 身体の傷と心の傷

福田 周

#### 石牟礼道子に見る 水俣病事件の「語り」と「運動」

宮嶋俊一

#### 忘れて捨てて生きる

塩沼亮潤

他、7篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

元気の源！  
斎藤孝志著／小野寺功応答

道・真理・命（全3冊）  
——ヨハネ福音書に徹して聴く《1,2,3》



小林重昭

本書は、二重、三重の肉体的ハンデायを負った著者が、『道・命・真理』について、ヨハネ福音書に徹して聴き、語った実存の書である。著者は、東京聖書学院（日本ホーリーネス教団・OMS）での四十五年の教師生活と、三五年の牧会伝道を退いた引退牧師である。しかし、引退と同時に（七五歳）に三度目の開拓伝道に取組み、再び講壇に立ったのである。しかも、七七歳の誕生日（喜寿・二〇一二年一月三日）に、「七冊の本出版」というビジョンにチャレンジしたのである。著者は五〇年来糖尿病を患い、余病（右目失明・左目八回の眼底出血・脳梗塞・一回―最近のMRI検査では大小六回―、心筋梗塞）を併発し、右手右足に後遺症の障害を持つ闘病者である。

まさに、著者は「元氣」なのである。「元氣の源」には二つの理由があった。一つは、渡辺善太郎の影響である。八十歳を過ぎてても銀座教会の講壇を守り続けた恩師の姿。また、中田重治の説教で救われた恵みを、涙して喜ぶ恩師の信仰の姿である。もう一つは、著者の青年時代のキリストとの実存の出会いである。「教会に三年通った後です。兄と父の病の為、私の家は

大きく傾き始めました。家の中は真つ暗になりました。大学生

であった私は、青山学院大学を退学しようかと、それとも何の意味もないこの人生、いつそのこと自死しようかと、夜も眠れず、思い悩んでいた時でした。突然、天から、『われは道なり、真理なり、生命なり、我によらでは誰にても父の御許にいたる者なし』（ヨハネ一四・六文語訳）というイエスの言葉が聞こえてきました。私はとっさに、イエスは神の御子であられ、私の生きるべき道であると信じました。ニヒリストであり、唯物主義者で、疑い深い私に信仰が与えられたのです。イエスを私の生きるべき道、信じるべき真理、受けいれるべき命であると信じました。その時、私は死より命に移されたのでした。これは、疑い深い唯物主義者の私の業ではなく、神の霊の働きであることと後日知りました（『道・真理・命3』まえがきにかえて）。「それ以来、わたしの人生に色々なことが起きりましたが、このイエスの御言葉が元氣の源であり、私を支え続けました。もっと大きく言えば、聖書「二十六書」全体（旧約三九書、新約二七書）を人間が記した神の言葉と信じて、毎朝、読み、祈

ること、これが私の元氣の源です。その他、仕事から沢山の本を読み、毎週日曜日の朝、メッセージをいたします。それが私の元氣の源です」（『道・真理・命2』牧者のことば6『元氣の源』）。

●本書の現代的意義

それは、著者のキリストとの実存の出会いから導かれた「元氣」である。日本の多くの若者は、経済的格差から来る先の見えない不安感と閉塞感から「元氣を失い」、虚無感に陥っている。まさに、本書は二十一世紀の混沌とした時代に送られた「希望の書、元氣の書」である。

●本書の持ち味

- ①ヨハネ福音書に魅せられた著者が、「ヨハネ福音書ってすごい！」と、聖書の説教を毎回喜びと感動をもって語っている。
- ②説教の「切り口」が小気味よい。手に取り味わってほしい！
- ③小野寺功先生（清泉女子大学名誉教授・カトリック神学者）

（こぼやし・しげあき＝川崎ホーリーネス教会牧師）  
（新書判・総八三〇頁・各巻本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）



長老職

改革派の伝統と今日の長老職

ルーカス・フィッシャー  
Lukas Vischer

吉岡契典\*訳



神の言葉のもとで  
教会を治める働き

A5判  
定価【本体2,000＋税】円  
ISBN978-4-86325-065-9



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

呻吟に寄り添いつつ、語るべき言葉を探し続ける一人の神学者、のレポート！

川上直哉著

# 被ばく地フクシマに立って 現場から、世界から

あの茫漠たる津波による爪痕の地に立った時、私たちは語るべき言葉を失った。自然の脅威の前に、私たち人間は悲しくも無力だった。が、放射能禍という人間が造り出した災禍の地においては、語らねばならない。それは平安も無いのにひたすら「平安、平安」と連呼する(エレミヤ六14) これまた人為的で虚しい言葉ではなく、それは例えば、我が子の被ばくに怯える母親の言葉だ。

布団の中が0.4μSv/h。

誰か鉛で布団を作ってくれたら、

せめて睡眠中くらい安心したい。ありえない。

福島でつらいこと

今もまだやすやすや寝息の聞こえるこの子等の

その柔らかなまつ毛や頬を撫でていました

被ばくさせる為に産まれたのではない

被ばくする為に産まれたのではない (本書12、13頁)

本書は、そのような『被ばく地フクシマに立って』現場の呻吟に寄り添いつつ、語るべき言葉を探し続ける一人の神学



吉田 隆

者のレポートである。

仙台圏の超教派の連合体「仙台キリスト教連合」が母体となつて震災後一週間に立ち上げられた被災支援ネットワーク「東北ヘルプ」の事務局担当著者として名乗りを上げてくださったのが、川上直哉牧師であった。当初一、二か月の緊急支援のつもりで始められた働きは、津波被災地の教会・民生支援からやがて放射能被災地での支援活動へとシフトし、現場での支援と国内外の諸団体とをつなぐネットワーク作りと後方支援に力を注ぎつつ五年目に入っている。

「東北ヘルプ」の働きは、いわゆる社会派と呼ばれる方々から福音派、さらには宗教の枠をも超える協働という、広範囲にわたる支援活動にその特色がある。このような働きが今日まで続いているのは、中心となつている理事たち全員が徹底して現場と祈りを大切にしていること、そして事務局長を務めている川上師の類まれな事務能力と絶妙なバランス感覚のおかげである。適材適所という言葉があるが、まさに神は私たちの働きのためにふさわしい人材を備えてくださった(そのことは本書の

付録に記された同師の「信仰歴」を読めばよくわかる)。

川上師は、その当初から、我々の働きが何を意味し、どこへ向かっているのかをロゴス化する努力をしてこられた。その言葉によって、我々はその都度自らの立ち位置を批判的に確かめることができた。神学という営みが神と我々(と世界)の現実を御言葉に照らしつつ省察しロゴス化する営みであるとするならば、師はまさにそれを現場に寄り添う働きのただ中で自覚的に取り組んでこられたのだ。

本書は「福島」ではなく被ばく地としての「フクシマ」に生きることから見えてくる現実が、「ヒロシマ」や「ナガサキ」そして「オキナワ」にもつながり、さらには第二次大戦後二〇世紀末までに二〇〇〇回を超える核実験によって被ばく地となつた国々、とりわけ「タヒチ」の現実にもつながっていることを示す。そのような現実認識に基づき、核兵器のみならず人間と被造世界の平和的共存に甚大な被害を及ぼす危険性のある核

発電所(＝原子力発電所)を含めた「核から解放された世界」への脱出(Exodus)を謳ったWCC声明(二〇一四年)が生み出された経緯をレポートする。「フクシマ」をめぐる言説は多々あるが、その場に立ち続けて語る者は少ない。川上師は、それを自らの使命とされている。冒頭に言及した母親の話にも耳を傾け、共に祈ってこられた。「核から解放された世界」への旅は決して絶望の旅ではない。が、一歩一歩を踏み出して行かねば決して進むことはできない。我々は、本書を対話の相手として、ここからどこへ向かうべきなのか、そして何をすべきなのか、自問しつつその立ち位置を確かめたいと願うのである。

(よした・たかし「東北ヘルプ」代表  
(新書判・二七六頁・本体一〇〇〇円+税・ヨベル)



東北ヘルプ事務局長

川上直哉著

被ばく地フクシマに立って

# 被ばく地フクシマに立って 現場から、世界から

現場から、世界から

「核の被ばく地フクシマ」で新しい神学の言葉を探す旅。

原発事故以来、不安と孤立を深める「フクシマ」をヒロシマ・ナガサキに連なる被ばく地と捉え、「核から解放された世界」を希求しながら、東北ヘルプの働きを担ってきた一牧師。その現場で積み上げてきた思索と神学の足跡。

●ヨベル新書026 二七六頁・一,〇〇〇円+税

## 好評既刊の本

宗藤尚三著 ヨベル新書 022

### 核時代における人間の責任 ヒロシマとアウシュビッツを心に刻むために

川上直哉師・評 学ぶこと多く、読後の印象は深い。「政治においては服従は支持と同じである」という宗藤さんの言葉は、今、厳しく響く。心して読み、深く沈黙を促される書物である。再版●新書判・176頁・1,000円+税

### A. グリューン著 村椿・松田訳 私は戦争のない世界を望む

岩本遠徳師・評 人を戦争に駆り立てる心理を形成する年少期の体験や親による支配、成功神話や支配欲などについては洞察を深め、それらを克服する力は「共感すること」(平和への夢を持ち続けること)だと説く。推薦いたします。●変型 46判・900円+税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

\*自費出版の専門出版社\*資料・星

生きた健全な教会の姿を浮彫するレポート第3弾！  
渡辺 聡著

## 医者も薬がなくてもうつと引きこもりから生還できる理由

東京バプテスト教会のダイナミズム3



中村佐知

東京バプテスト教会（以下TBC）は、世界五十ヶ国以上からの人々が集まる国際的な教会で、近年日本で成長している教会の一つである。本書は、TBCのメンバーの日常生活や信仰体験を具体的に紹介する「東京バプテスト教会のダイナミズム」シリーズの3冊めで、今や教会にとっても避けては通れない、うつや引きこもりの問題を取り上げている。

本書全八章のうち、五つの章は教会員の証しである。うつで苦しんでいた五人の人たちが、それぞれのようにキリストと出会い、どういう過程を通してうつから解放されていったのか、いかに彼らの生き方が変わっていったのか、インタビューをもとに彼らの具体的な体験を綴る。評者の娘もうつと数年闘っている、なかなか合う薬が見つからない苦労や不安は他人事ではなく、この五人の方たちの体験を自分の体験と重ねつつ、大変励まされた。彼らが過去の辛い痛みや葛藤も、包み隠さず分かち合ってくれたことに、心から感謝したい。

残りの三章は、心の病に対するTBCの考え方や具体的な取り組みを紹介している。

変わったわけではない。むしろ、TBCの共同体の中に現されている神の愛と、それによって一足先に変えられた人たちのいのちが、後からやって来た人たちのいのちにも触れ、包み、癒し、変化をもたらしているようである。それはまさに、生きた健全な教会の姿ではないだろうか。

著者は、そのようなTBCのダイナミズムは本来のピュリタニズムの倫理に基づくものかと言いつつ、「神に受け入れられたことに対する心の喜びの応答」として、「自分たちを神の栄光を現す道具として日々の歩みの中で精一杯生きていこうとする」こと、また「自分たちの持っている能力を最大限に生かして神に喜ばれる世界を築き上げて行こうとする」ことと表現している。

個人的には、患者に合ったものさしを見つかれば、向精神薬も一定の効果があるし、現在の世俗のセラピーで主流の認知行動療法は、聖書的にも根拠があるように思うので、精神医療を一

著者は、近年うつ病患者が増えていると言われているのは、向精神薬を売りたい人たちのマーケティング戦略による可能性があるのではないかと指摘し、多剤投与の実情とその問題、またサイエンスとしての精神医学が呈する限界を論じる。そして、精神医学や「クライアント中心療法」のような世俗のカウンセリング法に代わる聖書的な方法として、八年ほど前からTBCに導入された、「ビプリカル・カウンセリング」について説明する。

ビプリカル・カウンセリングとは、一九七〇年代初頭にジェイ・アダムズによって提唱されたものである。ヌーセティック（ギリシャ語で「論し・勧告」を意味する）・カウンセリングとも呼ばれ、心の病を解決されていない罪意識によって引き起こされたものと見なし、罪に對峙し、聖書の原則に従うよう教えることがその中心的な方法となる。

しかし、著者も認めていることであるが、本書に登場する方たちは、必ずしもビプリカル・カウンセリングを受けることで律に退けるべきではないと思っっている。また、そのような言論が教会から上がることで、精神科にかかっているクリスチャンが不必要な罪悪感を持つことがあってはならないだろう。しかしTBCでは、身体的疾患による心の病の存在も認め、罪から来る心の病とは区別し、前者の場合は医師の治療を受けるべきだと明言している。とても好感を持った。著者も認識しているように、この線引きは難しく、両方の要因が混在する場合もあるだろう。また、純粹に身体的疾患としての精神疾患を患っている人であっても、霊肉共に健康になるためには、神との出会いが不可欠だ。心の病というと、敬遠して関わりたがらない教会も多い中で、TBCが神の民の共同体として、愛をもって積極的にこの問題に向き合い、効果を上げていることは大きな希望である。TBCの取り組みに、感謝と敬意を表したい。

（新書判・二二六頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）  
（なかむら・さちこ 翻訳家）

## 医者も薬がなくてもうつと引きこもりから生還できる理由

渡辺 聡著

東京バプテスト教会のダイナミズム3



ワクワク感で乗り越えたら5つの実話！ ビプリカルな生き方という選択。現代日本の中で大きな社会問題となつていよううつや自殺。救いを求めて駆け込むクリニックで処方される薬の副作用で苦しむ多くの人々。医者も薬以外の第3の解決方法はないのだろうか？「生還者」の実証するTBCの新たな信実の記録。 ●ヨベル新書028 一、〇〇〇円＋税

### 渡辺 聡の本

東京バプテスト教会のダイナミズム  
日本唯一のメガ・インターナショナル・チャーチが成長し続ける理由

著しい成長と充実した各種ミニストリーの働きを通してどのような過程を経ながら現在の形をなしたかのレポート。  
\*ヨベル新書 003・1,000円＋税

東京バプテスト教会のダイナミズム2  
渋谷のホームレスがクリスチャンになる理由

東北支援活動での確かな働きをした、救われたホームレスの人たちの、具体的に心温まる奉仕活動の証しでもある。  
\*ヨベル新書 010・1,000円＋税

東京バプテスト教会のダイナミズム第1巻の翻訳版

英語版 Dynamism of Tokyo Baptist Church  
Spiritual Testimonies from a Growing Church in Tokyo, Japan  
インドネシア語版 Kemajuan dalam Gereja Baptis Tokyo  
Kesaksian-Kesaksian Rohani dari Gereja yang Sedang Bertumbuh di Tokyo, Jepang  
各 A5判・本体 800円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
\*自費出版の専門出版社\*

# 本屋さんを選んだ お勧めの本

北海道キリスト教書店 太田千代

## 『真理は「ガラタ タ」の中に』

大貫 隆著



1,900円+税  
教文館

副題に「自立する君へ」とある通り、本書は著者である大貫隆氏が自由学園高等学校に勤務中（二〇〇九〜二〇一四年）、学生たちに向けて語ったメッセージが収められている。また、東日本大震災を経験した人たちにに向けて、神は終始、苦しむ者の側にいてくださることに軸を据え、語り継いでいる。そこには「死ぬに死ねない死」を受けた者たちへ、未来を生きる希望の確信を届けようとする著者の深い願いがあり、その願いから、読者は深い慰めと、瞳を前へ向ける力をもらいながら読み進むことができる。今まで触れることのなかった聖書への斬新な切り口によ

る気づきと、時に迫られる「思考の大転換」は、まさに神さまからの贈り物である。読み終えた後、「自立すること」「神の前に自ら立つこと」の喜びを、青年だけではなく、どの世代の人も共に再確認できるのでは!?(著者は、日本基督教団札幌富丘伝道所でも礼拝説教をされており、北海道の書店としても一押ししたい一冊です)

### 北海道キリスト教書店

〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目

北海道クリスチャンセンター内

TEL: 011-737-1172

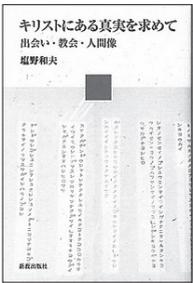
FAX: 011-747-5979

E-Mail: [sasaki@jb-shop.com](mailto:sasaki@jb-shop.com)

URL: <http://www.jb-shop.com>

## 『キリストにある 真実を求めて』

塩野和夫著



2,000円  
新教出版社

新生館 神吉学

真つ先に紹介したいのが、塩野和夫著、『キリストにある真実を求めて』です。塩野先生は、西南学院大学国際文学部で教鞭を取っておられ、日本基督教団の牧師でもあります。本書には恋愛論や教育論、ご両親のことなどさまざまな話題が収められています。また、本書には編纂委員を務められた「日本基督教団倉敷教会百年史」の貴重な資料も所収されています。「あとがき」には、西南学院の学生の協力、校正に次ぐ校正の裏話も書かれています。「本文」はもちろん、「はしがき」から「あとがき」まで読んでもらいたい一冊です。

## 『イチジクの木 の下で 上巻』

山浦玄嗣著



イー・ピックス  
1,600円

著者の山浦玄嗣氏は「ケセン語聖書」でも著名な方で、医師でもあります。本書は、以前「キリスト教本屋大賞」にも選ばれた『ガラヤのイエシュ』と合わせて読むべき四福音書の解説書です。み言葉の一つ一つをやさしく、詳しく解説しています。また著者は東日本大震災に被災されましたが、そのことにも触れています。読了後、下巻の刊行が待ち遠しくなるような一冊です。

### 新生館

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7

TEL: 092-712-6123

FAX: 092-781-5484

E-Mail: [info@sineseikan.jp](mailto:info@sineseikan.jp)

URL: <http://www.sineseikan.jp/>

■新教出版社

## 人を恐れず天を仰いで（仮題）

広岡浅子著

著者は、今秋放映されるNHK連続テレビ小説「あさが来た」のヒロイン。浅子は幕末から大正にかけて活躍した女性実業家であり、日本女子大の創設にも尽力した篤信のキリスト者。彼女の信仰随想集『一週一信』の復刊。

B6判・160頁・予価1500円

■日本キリスト教団出版局

## ノアのはこぶね

ナニー・ホゲロギアン作

藤本朝巳訳

神さまは天地を創造されました。動物も人間も地に増え、悪も満ちました。心を痛められた神さまは、ノアにはこぶねをつくり、すべてのいきものを一つがいづつ入れるよう命じます。すると神さまが語られたとおり、雨がふりはじめ……。聖書物語を素直に伝える絵本。

A4判変型・32頁・本体1400円

### INFORMATION

#### 近刊情報

## 祈りのともしび

——2000年の信仰者の祈りに学ぶ

平野克己編

祈りは天に向かって立ち上る信仰の炎である。どのように祈ったらよいかわからないとき、2000年の歴史の中でささげられた祈りは、現代を生きる心の奥底に潜む苦闘や嘆願や喜びを言い表し深い信仰の世界に誘う。古代から現代へ受け渡される三十余人の信仰と祈り。

四六判・112頁・本体1200円

■教文館

## 書物の民

——ユダヤ教における正典・意味・権威

M・ハルバータル著

志田雅宏訳

ユダヤ教の聖典である聖書、ミシュナ、タルムードは、テクスト中心の共同体の形成にいかなる役割を果たしたのか。「書物の宗教」における正典化と権威の諸問題を扱う論考。

四六判・344頁・本体3500円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	<a href="http://www.jp-shop.com">http://www.jp-shop.com</a>	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	<a href="http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/">http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/</a>	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲3-2	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	<a href="http://www.kyobunkwan.co.jp">http://www.kyobunkwan.co.jp</a>	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	<a href="http://www.avaco.info">http://www.avaco.info</a>	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	<a href="http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/">http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/</a>	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kiristokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	<a href="http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/ine/v.html">http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/ine/v.html</a>	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00540-6-82826
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	<a href="http://homepages3.nifty.com/seibunsho/">http://homepages3.nifty.com/seibunsho/</a>	nagoya-seibunsho@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	<a href="http://osakacbs.web.fc2.com/">http://osakacbs.web.fc2.com/</a>	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	<a href="http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/">http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/</a>	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	<a href="http://kcbook.net/">http://kcbook.net/</a>	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	<a href="http://www.okinawacbs.com/">http://www.okinawacbs.com/</a>	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

特集 教戦後70年の教会と神学1

今号から3回にわたり、戦後70年間の教会と神学の諸課題を回顧し、将来を展望する。第1回は聖書学と歴史神学を扱う。

寄稿者 八木誠一、出村彰、山我哲雄

好評連載 レヴィナスの時間論 (内田樹、宣教学)

事始め (来住英俊)、Christian Icon (八木美穂子)、こはの履歴書 (佐藤優)、詩篇の思想

と信仰 (月本昭男)、新約釈義 (青野大潮) 他

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

自民党改憲草案を讀む

自民党改憲草案・日本国憲法付録

横田耕一著

第一線の憲法学者が自民党案を綿密に読み込み、立憲主義自体を破壊する危険な本質を徹底批判。

A5判・130頁・本体900円



〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1

TEL : 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

最近読んで面白かったのは、穂村弘監修『はじめての短歌』（成美堂出版）です。「いい短歌の正体とは。」という副題のとおり、短歌の「よさ」とは何かを、穂村弘さんが解説します。

彼が言うのは、言葉には「生きのびるための言葉」と「生きるための言葉」があるということです。前者は「社会的に承認された価値」を表現する言葉で、ビジネスやマスメディアなどで用いられます。その言葉を聞けばだれもが同じことをイメージできる。これに対し、後者は、唯一無二の言葉。

穂村さんは問います。私たちはなんのために生まれてきたのか。生きのびるためじゃなくて、生きるためなのではないか。もちろん生きのびなくては、生きることはできないけど、でも生きのびるだけでは、つまらない。そして「いい短歌の正体」とは「生きるための言葉」だ、と。それがどういう言葉であるか、穂村さんは豊富な例を用いて、とてもわかりやすく解説し

てくれます。例えば、こんな短歌が紹介されています。

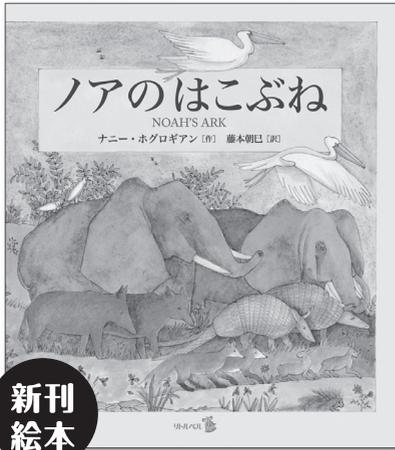
「煤」「スイス」「スターバックス」「すりガラス」「すぐむきになるきみがすきです」 やすたけまり

〈すぐむきになる〉を〈すてきなえがおの〉とすれば、わかりやすい。でも短歌としてはだめになる。なぜならこの〈すぐむきになる〉が、「生きるための言葉」だから。

この本を読みながら、説教のことを考えました。説教においても、教会に流布していて会衆に通じやすい言葉、つまり「生きのびるための言葉」と、説教者の生死に関わる唯一無二の「生きるための言葉」があるのではないか。それがどういう言葉なのか、私の内ではまだ具体的な像を結んでいないのですが、先達に学びつつ求めていきたいです。

(土肥)

コールデコット賞受賞絵本作家があたたかな色彩で描くノアの世界



新刊  
絵本

## ノアのはこぶね

ナニー・ホグロギアン 作 藤本朝巳 訳

天地をつくられた神さまは、動物と人が増えるなか、悪いことばかりする人に心を痛められました。ノアにはこぶねをつくり、すべてのいきものを一つがいつ入るよう命じます。すると雨がふりはじめ……。

◆241mm×213mm 上製・32頁・1,512円

おすすめ  
します

小塩 節

東京杉並・ひこばえ幼稚園園長



声に出して祈りたい、キリスト教2000年の  
歴史を綴る信仰者の祈り

## 祈りのともしび

2000年の信仰者の祈りに学ぶ 平野克己 編

古代から現代へ受け渡される三十余人の祈りを収録。どの  
ように祈ったらよいかわからないとき、祈りの名手から祈  
りの言葉を学ぶために。 ◆四六判 並製・112頁・1,296円

まずは  
まねること  
から

祈りのともしび

2000年の信仰者の祈りに学ぶ

平野克己 編



日本キリスト教団出版局

第26回  
キリスト教  
文化講演会

著作が示す苦しみの連帯と宗教の平和を読み解く

## 遠藤周作と井上洋治

遺言的著作『深い河』と『遺稿集「南無アツバ」の祈り』を読む

- 講師 山根道公 (ノートルダム清心女子大学教授、遠藤周作学会事務局長)
- 日時 2015年7月19日(日) 午後1時30分～3時30分
- 会場 教文館9階 ウェンライトホール ■参加費 500円
- 申込み 教文館キリスト教書部へFAX、メールのいずれかでお申込ください。  
FAX 03-3563-1288 E-Mail xbooks@kyobunkwan.co.jp

主催/教文館キリスト教書部、日本キリスト教団出版局 後援/日本キリスト教文化協会

日本の伝道を考える3

# 伝道する教会の形成

上田光正

●A5判・288頁・本体1,900円



今こそ、百年先の教会を考えよう！ 40年以上以上堅実な伝道・牧会をしてきた著者が贈る渾身の「日本伝道論」の全3巻。最終巻では、牧師と信徒の役割とともに、教会の一致や教団形成の問題を考える。

好評発売中！

1 日本人の宗教性とキリスト教

●A5判・210頁・本体1,500円

2 和解の福音

●A5判・202頁・本体1,500円

近藤勝彦

●四六判・266頁・本体2,000円

「伝道する教会の形成——なぜ、何を、いかに伝道するか」

6月の新刊 (価格表示は税抜)

正確な翻訳を  
分かりやすい日本語で！



# ウエストミンスター小教理問答

袴田康裕訳

新書判、本体800円

厳密な教理と深い敬虔が一体化したピューリタンの霊性の結実として、時代・地域を超えて愛されてきた「ウエストミンスター小教理問答」。その最新の翻訳を携帯しやすい新書判で贈る。(底本への忠実さ)と(日本語としての読みやすさ)を両立させた画期的な翻訳！

# はじめてのニーバー兄弟

S・R・ペイス

佐柳文男訳



第一次世界大戦から冷戦の時代に、世界に蔓延する悪に対峙しながらキリスト者の正義を追い求めたニーバー兄弟の生涯と思想を辿る。

●A5判・278頁・本体2,100円

# 七十人訳聖書入門

土岐健治

●四六判・240頁・本体1,800円

新約聖書において頻繁に引用され、現存するどの旧約聖書のヘブル語写本よりも古い「七十人訳聖書」。本書では様々な文献との比較を通してその特徴を明らかにする。本邦初の入門書！

本のひろば 第六九〇号 二〇一五年七月号

発行所 〒100-0044 東京都新宿区新小川町九一―1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話〇三―三三六〇―六五二〇 振替〇〇―一七〇―五―一六六七  
発行人 本村利春 編集人 中川 忠 印刷所 懐平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三―三三六〇―一五六七〇

定価七八円(税抜七二円)(〒62円)  
一年分一三〇〇円(送料共)